

ECB、金融緩和を継続

ポイント① 政策金利は据え置き

6月10日に開催されたECB（欧州中央銀行）の理事会では、金融政策に大きな変更はなく、ECB預金ファシリティ金利はマイナス0.5%に据え置きとなりました。PEPP（パンデミック緊急購入プログラム）による7-9月期の資産購入ペースについても、足元では景気回復が着実に進んでいますが、米国の経済正常化に伴う債券利回り上昇を抑える為に加速させた4-6月期の購入ペースを維持する見通しです。

ポイント② 経済活動は再開が進む

欧州では厳格な行動制限とワクチン接種ペースの加速により、新型コロナウイルスの新規感染者数は減少しています。ドイツでは夏までに12歳以上の全国民へのワクチン接種が完了する見通しです。行動規制の緩和も進み、観光業や飲食店をはじめとするサービス業を中心とした経済の回復は年後半にかけて更に加速すると考えられます。一方で、英国を中心にインド型の変異株の感染者数が増加していることが懸念されます。

ポイント③ ECBは難しい判断が迫られる

景気回復が物価を押し上げ、5月のユーロ圏消費者物価指数は前年比2.0%上昇となり、「2%を下回るがこれに近い水準」とするECBのインフレ目標に到達しました。ECBは足元の物価上昇は一時的なものと考えているようですが、英国ではイングランド銀行（中央銀行）が5月の会合で国債の買い入れペースの減速を決定するなど、量的緩和の縮小の動きも出始めています。ECBは緩和縮小の議論については時期尚早としており、依然として慎重な姿勢を示しています。予期せぬインフレを防ぐために、いつ行動を起こすべきなのか、金融政策のかじ取りに難しい判断が迫られています。

図1：ユーロ圏のインフレ率と政策金利

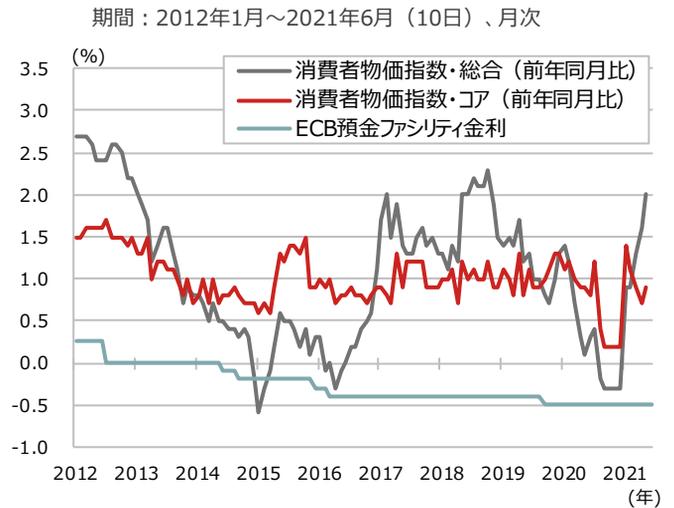


図2：ユーロの対米ドル、対円為替レート



重要
イベント

- 6月23日 ユーロ圏総合購買担当者景気指数（6月）
- 6月30日 ユーロ圏消費者物価指数（6月、速報値）